

# 広告

## 球春の訪れ

「春は選抜から」の名言、今年も高校球児の希望をのせて全国に球春を告げた。この時、沢村・西村の名投手をたたえて、故郷三重県で巨人、阪神の各選手が永久欠番の14・19番をつけてのオープン戦が行われた。伝説の人沢村栄治の栄光は、今日、最高荣誉として球界ピッチャー陣を奮い立たす沢村賞に遺<sup>のこ</sup>されている。しかし、幾度かの徴兵のなかでその輝きは次第に失われ、ベールースをはじめとするメジャーを抑えた栄光は、南海に散った。同時に多くの甲子園球児の魂も天にかえった。▼ソチ冬季オリンピック、パラリンピックは、理屈抜きに素顔の人間が持つているすごさを伝える機会となった。その反面、物々しい警備の様子は世界情勢や、地域紛争の現実をリアルな画像で配信してきた。まるでオリンピック終了を待っていたかのような軍事介入の報道は、あの輝きを放った真っ白な雪面に、軍靴の足跡をくつきりと残し、いささか鼻白む思いをした。またしても泣いたのは、パラリンピックの選手たちだった。▼スポーツの躍動と感動は同居しうるが、戦は全てを破壊し、人類のプライドさえ傷つけたものとする。スポーツの語源は諸説あるようだが、非日常的行動や精神的集中と解放の移動そのものをさしているようだ。近代スポーツはさらにルールを導入し、公平性を最優先としている。現在、あまりにも騒々しい世界にあるだけに、球児たちの白球よ、いつまでもと思わず願ってしまう。  
(市長)